

弘前大学ボランティアセンター (HUVVC)

News Letter

第4号

岩手県野田村の交流活動報告(2017年4月16日)



参加者の集合写真

今回の活動は、朝の6時に弘前大学前の正門に集合してからバスに大量の荷物を詰め込み6時15分に弘前大学を出発しました。天気も良く温かい素敵な日の始まりの予感です。

今回の参加者は、市民の方15人、引率教員2人、学生10人の合計27人でした。高速道路に乗り自己紹介をしながら野田村に向かいました。

到着してからは、買い出し、お湯を沸かす組とコミュニティカフェの設営に分かれそれぞれ作業を開始しました。設営場所が前回とは違い戸惑いましたがみんなで考えながら配置を決め、強風にテントやテーブルの上の荷物やお菓子が何度も飛ばされそうになりながらも、十六日市のスタートです。

地元の方々のお話をカフェで聞きながら交流したり、子供たちと一緒に遊んだりコミュニティカフェもプレイパークもとてもにぎわっている様子でした。ぬり絵は子供たちならではの色彩感によって素敵な作品がたくさん出来上がりました。強風で中止の棒パンを作るはずだったグループが、雨天時用に考えた棒パンと同じ材料で作れるカップケーキを作成し、カフェにもってきてくれました。カップケーキ作りはこれが初めてということもあり、問題が発生しながらうまく対応してくれたそうです。ほんのり甘くとてもおいしかったです。人が通らなく



おもてなしのコミュニティカフェ



好評だったカップケーキづくり

なって撤収し、お昼の休憩後、バスで被災地の様子や防波堤を見て回り、李先生から復興の様子や当時の被害状況などの説明を聞きながら、以前植樹した桜の木を見に行きました。日陰に植樹した木は少し元気がなかったけれども、ほとんどの木が元気に育ちつぼみを膨らませており、開花が楽しみです。

帰る途中のバスの中での感想では、棒パンが作れなくて残念という声、カップケーキについて、おいしかった、道具がなくて大変だった、との意見もありました。また、以前植樹した桜が元気に成長している様子を見ることができてよかった、桜が咲いたらその木の下でお花見をしたいなどの感想もありました。

また、3月にいった熊本地震における現地調査での報告も簡単ではありましたがバスの中で報告させていただきました。

そして18時00分頃に弘前大学に到着し、荷物を降ろし解散しました。

今回は資材が飛ばされそうな程に風が大変強く、棒パンがいきなり作れなくなったり様々なアクシデントがありましたが、みんなで工夫しながら問題に対処することができよかったのではないかと思います。全体的に前回よりも地元の人が少ないように感じましたが、たくさんの人に来てもらい人々がつながれる場所になれるように今回の反省点を今後に活かしていきたいと思います。参加してくださった方々、ありがとうございました。
(担当：COC推進室 野口拓郎)



プレイパークの様子

「弘前大学ボランティアセンター活動報告会～相次ぐ災害から地域を守る～」開催

平成29年3月10日(金)弘前市との共催で「弘前大学ボランティアセンター活動報告会～相次ぐ災害から地域を守る～」を弘前駅前公共施設ヒロロ3階健康ホールで開催しました。

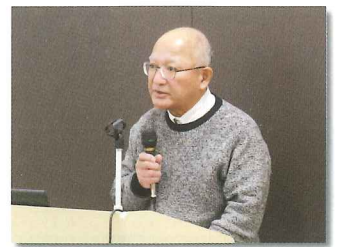
第1部では熊本学園大学ボランティアセンター ボランティアコーディネーターの照谷明日香氏による基調講演「熊本地震の大学教職員と学生の取り組み」が行われ、実際に被災現場の声を聞いた参加者からの様々な質問が飛び交い、今後の大災害から地域を守るために必要な準備や、避難場所での適切な対応について議論が交わされました。

第2部は、「ボランティア参加者の声」として当センター学生事務局 齊藤希媛さん、弘前市民代表 成田春洋氏、教員の声として、弘前大学教育学部准教授 高橋俊哉氏、学生の声として弘前大学理工学部2年 本間史哉さんに様々な立場から活動報告をいただき、最後に李永俊副センター長進行のもと、来場者全員を対象とした全体意見交換会が行われ、平成28年度の活動についてや、今後の課題などについて活発な意見交換が行われました。

閉会後には市民ボランティアの方々、学生やOB・OGがお互いに再会を喜び合うあたたかい活動報告会でした。



講演する照谷明日香氏



市民代表の成田春洋氏



意見を交わす市民と李永俊副センター長

熊本地震災害支援金を熊本YMCAへ贈呈しました



熊本YMCAへ目録とりんごの贈呈

平成28年4月18日から、弘前大学構内、JR弘前駅前、弘前市土手町でご協力をお願いして参りました募金活動の募金は、総額197,583円(平成28年10月23日締め)となり、3月10日にヒロロ健康ひろばで開催しました平成28年度弘前大学ボランティアセンター活動報告会と、ボランティアセンター運営会議での承認を経て、平成29年3月17日、熊本YMCAへ支援金として贈呈しました。

ご協力くださいました皆様に感謝申し上げます。

ボランティアへのご参加、募集等について

ボランティアへの参加について

ボランティアに関心をお持ちの方は下記までお問合せください。

- ・ 弘前市民の方・・・**弘前市ボランティア支援センター** TEL：0172-38-5595
- ・ 弘前大学関係者・・・**弘前大学ボランティアセンター** E-mail：huvc@hirosaki-u.ac.jp

学生ボランティアの募集の周知依頼、派遣依頼

学生ボランティアを募集したい団体からの周知、派遣要請を受け付けております。

詳しくはボランティアセンターのホームページ、または直接ご来室やお電話でご相談ください。

(※各種申請書類提出後、団体登録の可否、ボランティア要請の審議をさせていただきます。審査等に期間を要しますので、余裕を持って登録申請等行っていただきますようお願いいたします。)

- ・ 弘前大学ボランティアセンター・・・HP：<http://huvc.net/> TEL：0172-39-3268

岩手県野田村の交流活動報告(2017年7月29日)



今回参加して下さった皆さん(道の駅おりつめにて)

今回の交流活動は、毎月開催されている「野田村プチよ市」に参加させていただきました。

参加者は、市民18名、学生12名、教員1名の計31名でした。今回は、いつものコミュニティカフェではなく、主として子どもたちを対象にした棒パン作りとプレイパークを行いました。

プレイパークは、設置が終わるか終わらないかのうちに子どもたちが集まってきて大騒ぎになりました。主に学生が担当してくれたのですが、元気のいい子どもたちに大分息を切らせていました。帰りのバスの中の感想でも、「子ども元気で、元気もらった」「元気な子供たちと遊んだので、気持ちよく寝られそう」という声が数多く聞かれました。

棒パン作りは、生地が出来上がったところで、子どもたちに声をかけて棒に生地を巻き付け、じっくり焼くという作業を一



プレイパークで大はしゃぎ

緒にやりました。子どもたちは、喜んで自分で焼いたものを食べていました。野田村の皆さんの協力もあって、絶えず子どもたちが来てくれ、盛況のうちに生地がなくなりました。

「野田村プチよ市」では、何件か地元の飲食店や手作り雑貨のお店が出店していたので、参加者の皆さんは、それぞれ交代しながら食事や買い物を楽しみました。また、松本哲也さんのミニライブも行われていたので、野田村の皆さんと一緒にライブで盛り上がりつつもしていました。帰りのバスでも、「今日はボランティアというより楽しい一日だった」という感想が聞かれました。帰りは若干遅くなり、21時30分頃に弘前大学に到着しました。

今回の活動のように野田村の皆さんと学生も含めた弘前市の皆さんと一緒に楽しい時を過ごすことができるというのが、交流活動を続けてきた成果だと感じました。今後もこれを継続していきたいと思います。

(担当：人文社会科学部 平野 潔)



棒パン作り

【九州北部豪雨被害への募金活動】

弘前大学ボランティアセンターでは平成29年7月18日から九州北部豪雨への支援金募金活動をしております。弘前大学構内、JR弘前駅前、野田村交流活動などで、これまでにのべ40名の学生、教職員が御協力をお願いして参りました募金の総額は61,225円となっております(平成29年9月26日現在)。

これまで募金にご協力くださいました方々に深く御礼申し上げます。

今後もボランティアセンターに募金箱を設置し、総合文化祭などでの呼びかけを行って参ります。

引き続き、皆様のご協力宜しくお願いいたします。



弘大構内での募金活動

野田村夏休み宿泊学習会・活動報告(2017年8月11日、12日)

2017!夏の野田村宿泊学習

8月11・12日に野田村宿泊学習を行いました。野田の小学生24人、学生事務局を含む弘前大学の学生8人、李先生、スポネット弘前の鹿内さん、計34名が参加しました。

1日目は最初に簡単なレクリエーションをし、その後に体育館に移動して体を思いっきり動かしました。みんな元気いっぱい、チーム対抗でゲームになると熱中して真剣に取り組む様子が見られました。紙皿や牛乳パックでフリスビーとブーメランも作りました。身近にある物で簡単に楽しいおもちゃができ、それぞれ好きな絵を書いたりして飾りをつけたものをより遠くまで飛ばそうと工夫しながら遊ぶことができました。

LIGHT UP NIPPON では大学生と児童で4~5人くらいのグループになってお祭りを回りました。野田の名物を生かした屋台が多くあり、各自食べたいものを買って仲良く食べました。お祭りの途中で雨が降ってきてしまったため花火をゆっくり見ることは難しかったですが、とてもきれいでした。



クラフトテーブルでのかざづくり



ホタテの養殖見学

1日目は、一日中雨が降っていたため予定していた散策やBBQはできませんでしたが、3つのグループに分かれて、野田塩作りとホタテの養殖見学とエコクラフト作りを行いました。どのグループもそれぞれ良い経験ができたようでした。お昼ご飯はみんなで集まって一緒に食べ、ごはんの後に少しゲームをしてから最後に感想をお互いに言い合っ

て今回の宿泊学習は終了となりました。幅広い学年の小学生が参加してくれて、協力しながら活動ができました。特に高学年の子供たちは低学年の子の面倒をよくみており、お兄さん・お姉さんの役割を担っていてさすがだなと思わせられました。野田小学校の皆さん参加してくれてありがとうございます。

来年もぜひ参加したいと思います。

(担当：医学部保健学科看護学専攻3年 菊地洋絵)



元気な野田村の子どもたちと

野田村の魅力再発見

8月11日、12日に岩手県野田村で宿泊学習に行ってきました。

1日目は、講師の鹿内氏指導のレクリエーションでお互いのことを知ることから始まりました。子供達はすぐに私達の名前を呼んでくれて、いつのまにかにあだ名で呼ばれていた大学生もいました。レクリエーションで軽く汗を流した後は、会場を変えてLIGHT UP NIPPON というお祭りに参加しました。大学生と小学生で4人ずつの班に分かれて、それぞれ屋台で野田村の美味しいものを食べ、いよいよ打ち上げ花火の時間へ。友達と一緒に目の前で見る花火は子供達の一夏の思い出になったことでしょう。花火会場では途中で雨が降ってきました。小学生はどうするのかなど見てみると、

会場にあった屋根のあるスペースに急いで移動し、自分のみならず班員、一般の方々も濡れないように詰めて雨宿りしたり、お互いのことを拭いてあげたりと1日目にして子供達の成長を見ることが出来ました。

2日目は遊ぼう、学ぼう、味わおう野田というテーマのもと、野田塩づくり、ほたて養殖見学、エコクラフト作りの3つのコースに分かれて野田村の魅力再発見する活動をしました。私は塩づくりの班でした。のど塩工房というところで海水を煮詰めているところを見学した後、実際にフライパンを使って海水から美味しい塩を作りました。他の班も野田村を楽しむことが出来たと思います。そして最後は野田村の食材を使った昼食をいただき、ギリギリまでレクを楽しみ、2日間の宿泊学習を終えました。

今回の宿泊学習を通して、子供達は一回り成長したと思います。同い年同士はもちろん年上の子達が年下の子の面倒を見たり、準備で助け合ったりし、なにより2日間ずっと元気でたくさんの笑顔を見せてくれました。その姿に大学生は元気をもらうことができました。震災当初から7年連続で続いているこの宿泊学習を来年からも継続し、私達からも野田村に元気を届けることができるようにこれからの活動を一つ一つ頑張りたいと思います。

(担当：人文社会科学部1年 磯野雄太郎)



塩作り

弘前大学ボランティアセンター (HUVC)

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地

TEL : 0172-39-3268 FAX : 0172-34-5251 E-mail : huvc@hirosaki-u.ac.jp